

半促成栽培に適する緑肉メロン「イバラキング」

[要約]「イバラキング」は、県内の半促成栽培に適した緑肉メロンである。果実重は「アンデス5号」より重く、「オトメ」とほぼ同等である。日持ち性は「オトメ」より優れ、糖度および硬度は「アンデス5号」とほぼ同等で食味は優れる。

農業総合センター 生物工学研究所・園芸研究所

成果
区分

普及

1. 背景・ねらい

本県のメロンは、作付け面積 1670ha、産出額 170 億円といずれも全国第 1 位 (H18) であり、本県を代表する品目である。半促成栽培では「アンデス5号」や「オトメ」が主要な品種であるが、生育期・果実肥大期が低温期にあたるため、果実の小玉化や糖度不足など品質が低下しやすい。そこで、本県の作型に適した、大果で食味や日持ち性の優れる品種を育成する。

2. 成果の内容・特徴

- 1) 「イバラキング」は、平成 15 年に「P2 (ネット型露地メロンの培養系統)」×「P32 (アールス型メロンの自殖系統)」の組合せで作出し、平成 17 年の適応性試験で選抜した F₁ 系統である。
- 2) 雌花着生率・着果率は「アンデス5号」、「オトメ」と同等に高く、安定して着果する。開花日は「オトメ」より遅く、「アンデス5号」より早い (表 1)。
- 3) 果実重は「オトメ」とほぼ同等で、「アンデス5号」より重い。ネットは密に発生し盛り上がる。糖度は「アンデス5号」と同等で「オトメ」より高く、食味が優れる。収穫 7 日後の果肉硬度は「アンデス5号」よりやや低いが、「オトメ」より高く日持ち性に優れる (表 1、図 1)。
- 4) 果肉色は、「アンデス5号」の黄緑に対し、「オトメ」同様の白緑である。醗酵の難易は、「オトメ」が中に対し、「アンデス5号」と同等のやや難である。花落ちの大きさは、「アンデス5号」の中に対し、「オトメ」と同等の大である (表 2)。
- 5) 現地適応性試験における担当農家へのアンケート調査では、果実肥大性、肉質、日持ち性の評価が高く、ネットの評価が低い (表 3)。

3. 成果の活用面・留意点

- 1) ネット発生が不安定な場合があるので、ネット発生期の低温や土壌水分の急激な変化を避ける。
- 2) つる割病レース 0、レース 2 に対しては抵抗性があるが、レース 1、レース 1, 2w、レース 1, 2y には耐病性がないので、発病圃場では土壌消毒を実施し、接ぎ木栽培を行う。
- 3) うどんこ病に対する耐病性は、「オトメ」や「アンデス5号」より弱い。

4. 具体的データ

表1 メロン「イバラキング」の果重及び果実品質 (H17~H19 平均)

品種名	雌花 着生率 (%)	13節 開花日 1)	果実重 (g)	果形比 2)	ネット ³⁾		硬度(kg) ⁴⁾		糖度 (Brix%)
					密度	盛上	収穫 当日	収穫 7日後	
イバラキング	97	-2.0	1106	0.99	3.7	3.7	1.15	0.78	15.5
アンデス5号	98	0	892	0.98	3.2	3.3	1.18	0.86	15.2
オトメ	96	-5.7	1019	0.98	3.6	3.4	1.16	0.62	14.2

1) 開花日：アンデス5号を基準 (0) とした時の日数差

2) 果形比=果高/果径

3) 密度：密 (5) ~粗 (1)、盛上：高 (5) ~低 (1)

4) ユニバーサル果実硬度計 (木屋・円錐型Φ12mm) による果肉中央部貫入抵抗値

表2 メロン「イバラキング」の特性 (対照品種と区別性のあるもの)

品種名	果肉色 (緑~黄緑~白)	裂果の難易 ¹⁾ (易~難)	醗酵の難易 ¹⁾ (易~難)	日持ち性 (短~長)	花落ちの 大きさ (小~大)
イバラキング	白緑	難	やや難	中	大
アンデス5号	黄緑	やや難	やや難	中	中
オトメ	白緑	難	中	やや短	大

1)、収穫時

表3 メロン「イバラキング」の現地適応性試験担当農家へのアンケート調査 (H20)

項目	評価 ¹⁾ (5)←→(1)	平均	5	4	3	2	1
開花	早い←→遅い	2.8		○	○○●	○●	
着果	安定←→不安定	3.7	○	○○●	○	●	
果実肥大	良い←→悪い	3.8	○○	●	○○●		
ネット	安定←→不安定	2.5		○	○	○○●●	
熟期	早い←→遅い	3.7	○	○○●	●	○	
糖度	高い←→低い	3.5	○	○	○○●●		
肉質	良い←→悪い	3.8		○○○●●	○		
日持ち	良い←→悪い	4.2	○○●	○●		○	

1) 評価は慣行品種を3とした場合の相対評価 (対アンデス5号：○、対オトメ：●)

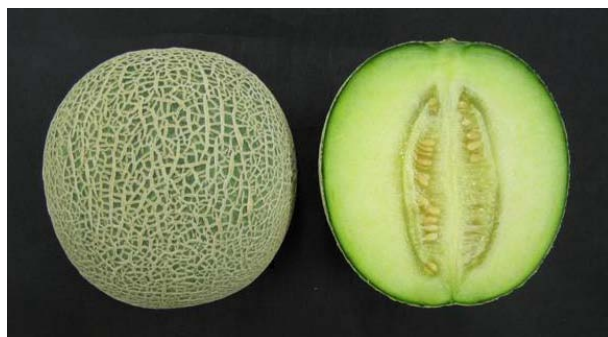


図1 メロン「イバラキング」の果実

5. 試験課題名・試験期間・担当研究室

野菜新品種育成および地域適応性検定試験・平成15年～・野菜育種研究室、メロンG